

対話的な意思決定の支援手法とキャリア教育への適用に関する研究

研究代表者 庄司 裕子 研究員

1. はじめに

プロジェクトマネジメント

プロジェクトを適切かつ最良の方法で成功に導くための管理手法

- 既存研究では、
- 作業効率を上げるための手法
 - リスクを減らすための管理手法・ツール



- プロジェクトにおける複数部署間での感性コミュニケーションに着目し、レビューの場とプロジェクトマネージャの果たす役割の検証
- プロジェクトにおける感性コミュニケーションが適切に行われているかどうかを判断するための指標の検討

2. 実験

感性コミュニケーション

複数のステークホルダーが、互いのコミュニケーション・ミスマッチを解消し、双方ともに納得できる、任意の結論を導き出すためのやり取り・働きかけ

実験概要

プロジェクトとして「旅行計画」を取り上げ、企画部署2人、開発部署2人による感性コミュニケーションの観察を行った。企画部署は大まかな旅行プランを考え、企画書を作成し、開発部署は企画部署が考えた旅行プランを具体化し、最終成果物としてチラシを作成する。レビューの場の有無、プロジェクトマネージャの有無による違いを検証し、比較を行った。



- レビューの場はプロダクトリスク(製品に関わるリスク)
- プロジェクトマネージャはプロジェクトリスク(プロジェクトの進行に関わるリスク)

に有効!!

3. 分析

プロジェクトのプロセスでは、最終成果物を作成する過程において段階的にイメージの精緻化・具体化が行われ、その過程に表れるキーワードも、曖昧なイメージレベルのものから、徐々に具体化される?

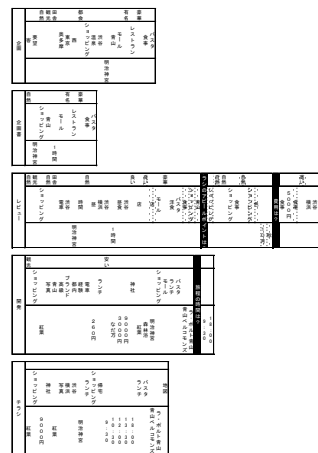


成果物および作業中の会話に出現した単語を分類

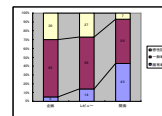
- 感性語(曖昧なイメージを表す)
- 一般単語(人によって解釈が異なる可能性のある一般名詞など)
- 固有単語(誰もが一意に特定できる固有名詞など)

分析結果

レビューの場およびプロジェクトマネージャが両方存在するパターンでは、感性コミュニケーションは最も適切に行われた。このとき、企画、レビュー、開発の時間を経て、感性語の割合は少なくなり、固有単語の割合は増えていることが分かった。



語彙の分析により感性コミュニケーションが適切に図れた事例を評価可能に!!



4. まとめ

本研究では、プロジェクトにおける感性コミュニケーションに着目し、レビューの場とプロジェクトマネージャの果たす役割を明らかにした。また、感性コミュニケーション中に現れる語彙の分析によって、プロジェクトにおける感性コミュニケーションの評価が可能であることを示した。

期待される効果

感性コミュニケーションが行われる場において、場と人が有効に働き、且つ言葉を用いてその効果を評価することができる!!